

和歌山県の外来種リスト その他無脊椎動物

No	目名	種名		カテゴリー	定着段階	外来生物法区分	国リスト区分	評価項目										由来		主な原産地	県内の分布	生息環境	備考	
		和名	学名					生態系被害				分布拡大		重要地域	社会被害		人間による拡散		国外					国内
								競合	交雑	捕食	変容	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入						
1	〈刺胞動物〉 マミズクラゲ目	マミズクラゲ	<i>Craspedacusta sowerbyi</i> Lankester, 1880		定着初期/ 限定分布			○	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-	不明	岩出市、紀の川市、橋本市、御坊市、印南町、みなべ町、田辺市、白浜町	ため池、ダム湖			
2	〈扁形動物〉 不透明目	アメリカナミウズムシ	<i>Girardia tigrina</i> (Girard, 1850)		定着初期/ 限定分布			○	-	○	-	○	-	-	-	○	○	-	北米大陸	和歌山市、海南市、新宮市	河川中～下流域	2018年の調査により、和歌山市を流れる紀の川の支流高川と和歌川支流和田川、海南市の日方川、新宮市の熊野川支流市田川で発見された。いずれも、平地を流れ有機汚濁がややある中～下流の小河川である。競合や捕食による在来種への負の影響を示唆する報告もあるが、実証されていない。セリ、クレソン、エンサイといった水生作物に付着したまま出荷されると衛生的な被害を引き起こす可能性があることが指摘されている。		
3	〈扁形動物〉 不透明目	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorotocephala</i> (Woodworth, 1897)		定着初期/ 限定分布			-	-	○	-	○	-	-	-	○	○	-	北米大陸	和歌山市、海南市、御坊市、新宮市	河川中～下流域	2018年の調査により、和歌山市を流れる紀の川の支流高川と和歌川支流和田川、海南市の日方川、御坊市の下川、新宮市の熊野川支流市田川で記録された。いずれも、平地を流れ有機汚濁がややある中～下流の小河川であり、アメリカナミウズムシと同所的に分布している。競合や捕食による在来種への負の影響を示唆する報告もあるが、実証されていない。		
4	〈環形動物〉 ケヤリ目	カナヤドリカンザシ	<i>Ficopomatus enigmaticus</i> (Fauvel, 1923)		定着初期/ 限定分布		その他の総合対策外来種	○	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	インド洋またはオーストラリア周辺海域か？	和歌山市	内湾、河口域	2004年以降、和歌山市紀の川河口で発見された記録が6回ほどあるが、それ以外の場所での報告はない。県外や国外で大発生した場合には、マガキ等の在来生物を被覆して死滅させたりすることがあり、警戒が必要である。		
5	〈環形動物〉 ケヤリ目	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i> (Haswell, 1883)		定着初期/ 限定分布		その他の総合対策外来種	○	-	-	○	○	-	-	◎	-	○	○	-	不明	和歌山市、白浜町	内湾、河口域	1928年に白浜町瀬戸川周辺で採集された標本が、日本初記録である。県下ではそれ以降1960年代までの報告がないが、1970年代以降、白浜町、和歌山市紀の川河口と和歌浦で発見されている。1960年代に広島県で大発生した際には、垂下養殖されたマガキを被覆して死滅させ、甚大な被害を与えたことがあり、警戒が必要である。	
6	〈環形動物〉 厚環帯目	ウスイロツリミズ(仮名)	<i>Aporrectodea caliginosa</i> (Savigny, 1826)		定着初期/ 限定分布			○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	旧北区	串本町で記録がある	森林、里地	全国的にも記録が少ない。和歌山県では1945年以前の1例の記録があるのみだが、その後の調査がほとんど行われていないため、現状は不明。	
7	〈環形動物〉 厚環帯目	フクロナシツリミズ	<i>Bimastos parvus</i> Eisen, 1874		定着初期/ 限定分布			○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	北米	串本町で記録がある	森林、里地	全国的にも記録は多くない。和歌山県では1945年以前の1例の記録があるのみだが、その後の調査がほとんど行われていないため、現状は不明。	
8	〈環形動物〉 厚環帯目	シマミズ	<i>Eisenia fetida</i> (Savigny, 1826)		定着初期/ 限定分布			○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	旧北区	串本町で記録がある	里地	全国に広く分布する。釣り餌として流通しており、逸出が懸念されるものの、生息適地は限られ、森林生態系内からはほとんど採集されず、大きな影響はないとされている。	
9	〈環形動物〉 厚環帯目	カイヨウミズ	<i>Ocnerodrilus occidentalis</i> Eisen, 1878		定着初期/ 限定分布			○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	不明	串本町で記録がある	森林、里地	全国的にも記録が少ない。和歌山県では1945年以前の1例の記録があるのみだが、その後の調査がほとんど行われていないため、現状は不明。	
10	〈節足動物(缺角類)〉 サソリモドキ目	アマミサソリモドキ	<i>Typopeltis stimpsonii</i> (Wood, 1862)		定着初期/ 限定分布			-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	奄美大島	有田市	土壌性	2011年に発見。本州各地の発見例については、ソテツの苗木や鉢物に潜入した個体が運ばれたと考えられているが、発見場所は住宅建築会社であることから、建築用木材への混入により移入した可能性がある。	
11	〈節足動物(缺角類)〉 クモ目	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasselti</i> Thorell, 1870	防除対策外来種	分布拡大～まん延	特定外来生物	緊急対策外来種	-	-	○	-	○	◎	-	◎	-	-	○	○	-	オーストラリア	和歌山市、岩出市、橋本市、紀の川市、海南市、かつらぎ町、紀美野町、白浜町	都市部、住宅地等、人工的な環境	1996年、和歌山市内の小学校で発見。前年の大阪府・三重県・沖縄県に次いで全国で4番目。
12	〈節足動物(缺角類)〉 クモ目	クロガケジグモ	<i>Badumna insignis</i> (L.Koch, 1872)		分布拡大～まん延			○	-	○	-	◎	◎	-	-	-	-	○	○	-	オーストラリア	県内全市町村	住宅地等、人工的な環境	1963年に大阪府で最初に確認され、1975年には和歌山県すさみ町において全国で2番目となる生息確認がされた。
13	〈節足動物(甲殻類)〉 背甲目	タイリクカブトエビ	<i>Triops sinensis</i> (Uéno, 1925)		定着初期/ 限定分布			-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	中国	白浜町、すさみ町周辺	水田	これまで日本各地からアジアカブトエビ <i>Triops garanarius</i> とされてきた種。Naganawa (2018)により改名された。	
14	〈節足動物(甲殻類)〉 背甲目	アメリカカブトエビ	<i>Triops longicaudatus</i> (LeConte, 1864)		分布拡大～まん延			-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	北米～中米	和歌山市、白浜町、すさみ町周辺	水田	和歌山県内に比較的広く分布する。	
15	〈節足動物(甲殻類)〉 背甲目	シラハマオーストラリアカブトエビ	<i>Triops strenuus</i> Wolf, 1911		定着初期/ 限定分布			-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	オーストラリア	白浜町、上富田町	水田脇の水路	Naganawa (2018)により、日本国内で初めて記録された。他のカブトエビ類とは異なり、止水でなく流水中を群れる。白浜町の白良浜の養浜事業のためにオーストラリアから持ち込まれた砂に休眠卵が混じっていて、そこから拡散したとみられている。	
16	〈節足動物(甲殻類)〉 無柄目	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i> (Darwin, 1854)		分布拡大～まん延		その他の総合対策外来種	○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	太平洋熱帯海域	県内全域	内湾、港湾	1938年以前に白浜町で記録されており、現在、県内全域の港湾に分布している。養殖貝類や漁具・船底を汚損し、在来種サラサフジツボを全国の内湾域から駆逐した可能性も示唆されているが、在来種への確実な被害は知られていない。	
17	〈節足動物(甲殻類)〉 無柄目	アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i> (Gould, 1841)		分布拡大～まん延		その他の総合対策外来種	○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	北米南部～南米北部の大西洋岸	県内全域	内湾、河口、港湾	県下での初記録は1972年串本町で、それ以後、和歌山市～那智勝浦町までの内湾・河口域と規模の大きな港湾で発見されている。養殖貝類や漁具・船底を汚損するが、在来種への確実な被害は知られていない。	
18	〈節足動物(甲殻類)〉 無柄目	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i> (Darwin, 1854)		分布拡大～まん延		その他の総合対策外来種	○	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	欧州中部	県内全域	内湾、河口、港湾	県下での初記録は1962年海南市で、それ以後、和歌山市～那智勝浦町までの内湾・河口域と規模の大きな港湾で発見されている。養殖貝類や漁具・船底を汚損するが、在来種への確実な被害は知られていない。	
19	〈節足動物(甲殻類)〉 無柄目	ココボーマアカフジツボ	<i>Megabalanus coccopoma</i> (Darwin, 1854)		定着初期/ 限定分布			○	-	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	中南米太平洋岸	和歌山市、海南市、田辺市、白浜町、すさみ町	海岸、内湾	国内では1978年に初めて発見され、東京湾での発見例が最も多いが、現在、各地に分布を拡大中であると思われる。県下での初発見は1981年海南市の岩礁で、その後2004年までの記録はないが、2005年以降、和歌山市、海南市、田辺市、白浜町、すさみ町の11ヶ所の岩礁や灯浮標で発見されている。灯浮標、漁具、漁網等を汚損するが、在来種への被害は不明である。	
20	〈節足動物(甲殻類)〉 端脚目	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i> Bousfield, 1963		定着初期/ 限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	アメリカ合衆国南東部	和歌山市、湯浅町	河川中～下流域	2004年に和歌山市六十谷の紀の川下流で発見されており、2015年には湯浅町湯浅の山田川での目撃情報もある。在来種のヨコエビ類は湧水のある河川上～中流の貧酸素水域に生息する種が多いが、本種は中～下流部の有機汚濁がやや強い水域にも生息できる。他県では在来ヨコエビと混生している場所も見つかっているが、競合等の関係は不明である。	
21	〈節足動物(甲殻類)〉 等脚目	オカダングムシ	<i>Armadillidium vulgare</i> (Latreille, 1804)		分布拡大～まん延			○	-	-	-	◎	○	-	-	-	○	○	-	欧州	県内全市町村	都市、郊外	場合によっては園芸害虫となる可能性がある。	

No	目名	種名		カテゴリー	定着段階	外来生物法区分	国リスト区分	評価項目										由来		主な原産地	県内の分布	生息環境	備考	
		和名	学名					生態系被害				分布拡大		重要地域	社会被害		人間による拡散		国外					国内
								競合	交雑	捕食	変異	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入						
22	〈節足動物(甲殻類)〉等脚目	ホソワラジムシ	<i>Porcellionides pruinosus</i> (Brandt, 1833)		分布拡大～まん延			○	-	-	-	◎	○	-	-	-	-	○	○	-	欧州	和歌山市、海南市、橋本市、由良町、白浜町、串本町、那智勝浦町等	都市、郊外、海浜	平野部は全県的に分布すると思われるが、紀南などではしばしば多産する。
23	〈節足動物(甲殻類)〉等脚目	ナガワラジムシ	<i>Haplophthalmus danicus</i> Budde-Lund, 1879		分布拡大～まん延			○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	不明	美浜町、高野町、印南町、串本町等	森林、里地	全国的にしばしば多産するが4mmまでの小型種の為、見つけにくい。
24	〈節足動物(甲殻類)〉等脚目	クマワラジムシ	<i>Porcellio laevis</i> Latreille, 1803		定着初期／限定分布			○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	欧州	田辺市内之浦	都市、郊外	最近、田辺市の内之浦で渡部哲也氏により確認。
25	〈節足動物(甲殻類)〉十脚目	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> spp.	重点啓発外来種	定着初期／限定分布			○	○	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-	中国・韓国・台湾	有田川、南部川、富田川から	河川中下流部、水路	日本固有のミナミヌマエビ <i>Neocaridina denticulata denticulata</i> とは異なる複数種を含むもの。釣り餌や観賞用として輸入されたものが廃棄放流されて日本各地で拡がりつつある。在来のミナミヌマエビとの交雑も懸念される。近年和歌山県内の河川からも記録されるようになった。
26	〈節足動物(甲殻類)〉十脚目	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i> (Girard, 1852)	重点啓発外来種	分布拡大～まん延		緊急対策外来種	-	-	◎	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	アメリカ合衆国	県内全域	水路、池沼、水田	日本生態学会(2002)で侵略的外来種に上げられている。競合する在来のザリガニは和歌山県には分布しないが、他の水生生物に影響を与え、生態系を改変させる恐れがあるとされている。
27	〈節足動物(甲殻類)〉十脚目	イッカククモガニ	<i>Pyromaia tuberculata</i> (Lockington, 1877)		定着初期／限定分布			-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	北米から中米の太平洋沿岸	海南市、有田市	内湾	和歌山県沿岸では、海南市と有田市の海岸からの記録があるが、東京湾のように多産することはない。
28	〈節足動物(甲殻類)〉十脚目	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i> Nardo, 1847		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	地中海沿岸	和歌山市	内湾	和歌山県沿岸では、和歌山市和歌川河口と紀の川河口からの記録があるが、それ以外の地域からの情報はない。